⑤巡礼の形式の種類

● **巡礼の形式には 3 種類 - タマットゥと キラーンとイフラード - があります :**

1－タマットゥ（ウムラを終えてからハッジに移行する巡礼形式）の形：ハッジの期間中にウムラのためのイフラーム[1]をし、それを完遂します。そして同年にマッカ、あるいはその近郊からハッジのためのイフラームに入り、イードの日（ズー・アル＝ヒッジャ月[2]の 10 日）アル＝アカバのジャムラ[3]への投石を済ませるまでその状態のまま留まります。この巡礼形式には犠牲が課せられます。最初のイフラームに入る時には、「タマットゥ（享受）しつつハッジへと移行させるウムラのために、あなたの御許に馳せ参じます」[4]と唱えます。

2－キラーン（ハッジとウムラを同時進行する巡礼形式）の形：ウムラとハッジのためのイフラームを、同時に行います。あるいはハッジのためのイフラームを行い、その後にウムラをそこに併合します。そしてイフラームに入る際には、「ウムラとハッジのためにあなたの御許に馳せ参じます」と唱えます。またタワーフ[5]を行う前に月経や産後の出血などに見舞われるなど正当な理由を有する者は、ハッジをウムラに併合することが許されています。

3－イフラード（ハッジのみを行う巡礼形式）の形：ハッジのためのイフラームを単独で行い、その際には「ハッジのためにあなたの御許に馳せ参じます」と唱えます。尚このイフラードとキラーンの巡礼形式の間には、キラーンにおいては犠牲を要求されるということの他、何の違いもありません。一般的にキラーンはイフラードよりも優れており、タマットゥはキラーンよりも優れているとされます。

● 最良の巡礼形式は？

ハッジをする者は、最良の巡礼形式と言われるタマットゥで行うべきでしょう。というのもタマットゥこそは、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がハッジの際にその教友たちに命じたものなのであり、その「別れのハッジ」で犠牲を伴っていなかった全ての者に行わせたものなのですから。またタマットゥは、最も簡単かつ行いの多い巡礼形式でもあります。

---

[1] 訳者注：詳しくは「③イフラーム」の項を参照のこと。
[2] 訳者注：ヒジュラ暦 12 月のこと。
[3] 訳者注：「ジャムラ」とはマッカ近郊の巡礼者宿営地「ミナー」にある、大小中３本の投石塔。ヒジュラ暦 12 月 10 日に最大の柱「アル＝アカバ」に 7 個、そして 11、12、13 日には各柱に 7 個ずつの小石を投石することになっています。
[4] 訳者注：「タマットゥ（享受）」という名称は、一旦ウムラをした後、ハッジの時期が来るまでイフラームを解き、その間イフラームに伴う様々な禁止事項から縛られないでいる安楽を享受していられることに由来します。
[5] 訳者注：「タワーフ」は巡礼（ハッジとウムラ）の諸義務行為の内の 1 つ。アッラーを崇拝するためにカアバ神殿の周囲を 7 回逆時計回りに廻ります。

● キラーン、あるいはイフラードのイフラームに入った者は、例えタワーフやサアイ[6]を終了してしまっていたとしても、犠牲を伴っていない限りその巡礼形式をタマットゥのためのウムラに変更してしまう方が良いでしょう。そのようにする場合、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の命に従ってその後頭髪を剃るか切るかしてからイフラームを解除します。一方犠牲を伴っている者はイフラームの状態のまま留まり、イードの日に投石するまでそれを解除しません。

● **マッカへの入り方：**

　ハッジにせよウムラにせよ、イフラームに入ったらタルビヤ[7]を唱えながらマッカを目指します。そしてもし可能なら、マッカの高い場所から入り、グスル[8]することがスンナ[9]です。ハラーム・モスクに入るのに決まった方角はありませんが、モスクには通常通り右足から入ります。そして以下のような、モスクに入る時のドゥアー（祈り）を唱えます：

　「アッラーよ、あなたのご慈悲の扉を、私にお開き下さい。」（ムスリムの伝承[10]）

　「私は偉大なるアッラーに、その尊い御顔に、そして原初よりのかれの権威において、呪われたシャイターンからのご加護を与えて下さるよう求めます。」（アブー・ダーウードの伝承[11]）

● ハラーム・モスクに入ったら、義務のサラー（礼拝）時間が始まったのではない限り、直接タワーフを開始します。もし義務のサラーが行われていたら、まずそれを行ってからタワーフに移ります。

● ウムラを単独で行う者、あるいはタマットゥのウムラを行おうとする者は、「ウムラのタワーフ」から開始します。またキラーン、あるいはイフラードのハッジをする者は、「タワーフ・アル＝クドゥーム（到着のタワーフ）」から開始します。ちなみにこれはスンナであり、義務行為ではありません。

● イフラームの解除は、巡礼の完遂か、あるいは前もって条件をつけていて巡礼を阻まれた場合[12]、または単に巡礼を阻まれた場合に行われます。

6　訳者注：「サアイ」とは、「サファーとマルワの丘」の間を「サファーの丘」から始めて 3 往復半することで、ハッジとウムラの根幹的行為の内の 1 つです。

7　訳者注：詳しくは「③イフラーム」の項を参照のこと。

8　訳者注：心身の清浄化を意図した全身の洗浄。

9　訳者注：預言者ムハンマド（彼にアッラーの祝福と平安あれ）の示した手法や道のこと。ムスリムは可能な限り、彼のスンナを踏襲するべきであるとされています。

10　サヒーフ・ムスリム（713）。

11　真正な伝承。スナン・アブー・ダーウード（466）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（441）。

12　訳者注：ムフリム（イフラームに入る者）は病気や（敵による妨害などの）恐怖の状態にある場合、イフラームの際に巡礼の形式を唱える時、こう言うことがスンナです：「もし阻むものが私（の巡礼の遂行）を阻んだら、私の（イフラームを解く）場所はあなたが私を阻まれた所です」こうすれば、もし何かによって巡礼を妨害されたり病状が悪化したりしても、イフラームを解く際に犠牲を捧げなくても済むのです。